

Kuroshio Biosphere

【投稿規定】

○ 投稿論文の内容:陸域・海域を問わず、黒潮流域の生態系における生物および環境に関わる論文を対象とする。学術雑誌、一般雑誌、図書、会誌等で公表したものを含んではならず、未発表ものに限る。

○ 出版時期:原則として毎年1号を出版する。ただし、投稿論文数が多い場合など特別な理由により、2号以上を出版する場合もある。

○ 掲載論文の言語:日本語あるいは英語とする。

○ 掲載論文の種別:掲載論文は原著、総説、**On Kuroshio**とする。

○ 原稿の構成:以下の順序に従う

掲載論文の種別、和文表題、英文表題、和文著者名、英文著者名、和文住所および所属、英文住所および所属、責任著者の電話番号・FAX・E-mail アドレス、和文略題、英文略題、英文要旨、キーワード、本文(和文または英文)、謝辞、引用文献、図の説明(本文の言語に関わらず英文)、図、表(本文の言語に関わらず英文)

○ **On Kuroshio** の構成:**On Kuroshio** は、図や引用文献を含めて B5 判 1 ページないし 2 ページの論文であり、英文要旨およびキーワードを必要としない。

○ 原稿の投稿方法:マイクロソフトワードファイルあるいはそれに準ずるソフトウェアにより作成されたファイルの電子投稿のみを受け付ける。図および表は別データにて送付する。図は JPEG または EPS ファイルで作成する。電子原稿の作成にあたっては、「原稿作成上の注意」の指示にしたがうこと。投稿に際し、当研究所ホームページよりダウンロード可能な様式チェックシートに記入し、様式に間違いがないことを確認すると同時に、同チェックシートを電子原稿とともに送付する。ただし、**On Kuroshio** ではチェックシートを必要としない。

○ 原稿の投稿先:黒潮生物研究所

Kuroshio Biosphere 編集委員長

投稿先メールアドレスは当財団のホームページを参照すること。

○ 原稿の受付:投稿後 1 週間以内に編集委員会から投稿受付の連絡が送られる。受付の連絡が来ない場合には、原稿送付先に問い合わせること。

○ 論文掲載の可否:査読者の意見を参考にして、編集委員会が決定する。査読は 1 名ないし 2 名で、編集委員会が黒潮生物研究所職員あるいは外部の適任研究者に依頼しておこなうものとする。On Kuroshio の査読は基本的に 1 名とする。電子投稿に際し、著者は査読者候補を、住所および電子メールアドレスを明記の上、推薦することができる。内容に問題があると判断された場合は著者に修正を求める。掲載が不相当と判断された論文については、理由を付して著者に返却する。なお、担当編集委員によって掲載可と判断された原稿について、編集委員長が確認した日を受理日とする。

○ 著作権の移譲:著者は論文が受理される時点で、当該論文に関する著作権を黒潮生物研究所に移譲する。この著作権は、当該論文に関する紙媒体、電子媒体、その他いかなる媒体での出版や配布に対して独占的かつ無制限の権利をもつ。また、本著作権は全ての言語や国に対する翻訳権も併せもつ。

○ 最終原稿と原図の送付:編集委員長からの連絡にしたがって最終原稿を作製し、原図とともに提出する。デジタル原図については「原稿作成上の注意」の指示にしたがうこと。

○ 投稿費および印刷費:特別な希望があり、その必要性が編集委員会によって承認された場合を除き、別刷りを準備しない。そのため、投稿費および印刷費は発生しない。

○ 校正:著者校正は原則として初校のみとし、再校以後は編集委員会が校正をおこなう。著者は初校を受領したのち、指定された日までに校正をおこない、編集委員長へ返送する。再校以後は、初校返送時にそれを希望し、編集委員長により認められた場合に限る。

【原著および総説の原稿作成上の注意】

原稿の体裁:原稿のサイズはB5とし、横書きで作成する。上下左右の余白は上下約2.5 cm、左右約2.3 cmとする。原則として文字は10ポイント、行間は1行とする。全ページに連続した行番号およびページ番号を挿入する。和文フォントは「MS P 明朝」、英文フォントは「Times New Roman」にて作成する。ギリシャ文字やキリル文字などの特殊文字は Times New Roman などの英文フォントを使用する。

第1 ページ

以下の項目のみを左詰めで書く、掲載論文の種別、和文表題、英文表題、和文著者名、英文著者名、和文住所および所属、英文住所および所属、責任著者の電話番号・FAX・E-mail アドレス、和文略題、英文略題

第2 ページ

英文要旨、キーワード

第3 ページ以降

本文(和文または英文)、謝辞、引用文献、図の説明(英文)、表(英文)

略題:和文略題は全角20文字以内、英文略題は半角40文字以内とする。

英文要旨:論文の全体像がわかるように、研究の背景や目的も含めて書き、100から300語程度とする。英文はネイティブによる英文校正を受けていることが望ましい。

キーワード:論文の内容と合致した単語を5つ程度選定する。和文表題および英文表題に含む単語は使用しない。

句読点および括弧:和文では「,」「。」を使用し、「,」「.」は使用しない。あらゆる括弧において、全角の場合はスペースを挿入せず、半角では半角スペースを挿入する。ただし、「Toshino et al. (2020).」のように、半角括弧の直後に句読点がある場合には半角スペースは不要。

学名とその著者名:学名はイタリック体で示し、本文に最初に出てくるところにおいては命名者と命名年を付す。2名以上の命名者を示す際は「&」を用いる。命名者と命名年のあいだには「,」を挿入する。本文内で引用していない限り、原記載論文は引用文献に加えない。同じ段落のなかでは、その学名が初出でない場合を除いて、属名を省略する。

単位など:値と単位のあいだには半角スペースを挿入する。百分率を示す「%」もその限りではない。計量単位には国際単位を使用し、「mm」「g」「ml」などのように小文字だけで記す。特殊記号も用いず、ピリオドをつけない。AからBまでという場合、「A–B」(n-dashを使用)あるいは「AからB」とし、「～」は使用しない。統計量をあらわす「n」「P」などは、本文・表のいずれにおいてもイタリック体で示す。

本文中の引用文献:本文中で連記する場合は、まず年代順、次に著者名のアルファベット順とする。著者と発表年のあいだは半角スペースを挿入する。引用文献のあいだは「;」で繋ぐ。著者が2名のときは英文の場合 Koeda and Kitamura (2020) あるいは (Koeda and Kitamura 2020)、和文の場合目崎・古井戸(2020)あるいは(目崎・古井戸 2020)とする。著者が3名以上のときは英文の場合 Toshino et al. (2020)、和文の場合小枝ほか(2019)とする。「et al.」はイタリック体にしない。投稿中や査読中の文献は引用文献には使用しない。

引用文献欄の書き方

○ 引用文献は著者名のアルファベット順とし、次に単著、著者2名、著者3名以上(本文中で「et al.」あるいは「ほか」として引用した文献)、次に年代順とする。印刷中あるいはin press、受理済あるいはacceptedの場合は、年代順の最後に記す。

○ 引用文献欄では、著者が3名以上の場合でも省略しない。同じ著者が続く場合でも、著者名を略して――のような表記はしない。

○ ページ数や図版数は、引用した箇所だけではなく、その文献の全ページ数と図版数を示す。ただし、書籍の一部を引用する場合は、該当箇所の著者名、該当表題、全ページ数、図版数ならびに本の表題と編者を示す。

○ 本あるいは雑誌であることを明確にするため、書籍の英文表題あるいは雑誌の英文表題をイタリック体で示す。なお、雑誌名は略記しない。

○ ウェブページの引用については官公庁など公的機関のものに限る。ただし、編集委員会が必要と認めた場合はその限りではない。

○ 引用文献の書き方は以下の例に従う。

喜多村鷹也 (2019) サンゴを食べる巻貝たち. *Current*, R2: 2–3.

Koeda, K. and Ho, H.-C. (Eds.)(2019) *Fishes of southern Taiwan. Volumes I–II*. National Museum of Marine Biology & Aquarium, Pingtung, Taiwan. xxiii + 1353 pp.

Koido, T., Imahara, Y. and Fukami, H. (2019) High species diversity of the soft coral family Xeniidae (Octocorallia, Alcyonacea) in the temperate region of Japan revealed by morphological and molecular analyses. *Zookeys*, 862: 1–22.

目崎拓真・久保田 賢 (2012) 高知県沿岸海域における造礁サンゴ群集の変遷. *海洋と生物*, 34 (4): 332–337.

Toshino, S. (2017) *Scolionema sanshin* sp. n., a new species (Hydrozoa, Limnomedusae, Olindiidae) from the Ryukyu Archipelago, southern Japan. *Zootaxa*, 4344 (2): 277–290.

戸篠 祥 (2017) 日本産箱虫綱の分類と生活史. Pp. 2–16. 豊川雅哉・西川 淳・三宅裕志 (編), *クラゲ類の生態学的研究*. 株式会社生物研究社, 東京.

(ウェブページの引用)

Fricke, R., Eschmeyer, W.N. and van der Laan, R. (Eds.)(2019) *Eschmeyer’s Catalog of Fishes: Genera, Species, References*. Electronic Version. Available from: <http://researcharchive.calacademy.org/research/ichthyology/catalog/fishcatmain.asp>. (Accessed 31 December 2019)

気象庁 (2016) 過去の気象データ検索, 気象庁ホームページ:

<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> (参照 2019 年 12 月 31 日)

(英文要旨がある和文雑誌を英文原稿で引用する場合)

和文

戸篠 祥 (2018) 宿毛湾から採集された四国初記録のサカサクラゲ *Cassiopea* sp. (鉢虫綱、根口クラゲ目、サカサクラゲ科). 日本生物地理学会会報, 72: 200–203.

英文

Toshino, S. (2018) New record of upside-down jellyfish, *Cassiopea* sp. (Scyphozoa, Rhizostomeae), from Sukuma Bay, Shikoku, western Japan. *Bulletin of the Biogeographical Society of Japan*, 72: 200–203. (In Japanese with English abstract)

(和文書籍を英文原稿で引用する場合)

和文

小枝圭太 (2018) アオバダイ科. P. 300. 中坊徹次(編), 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 小学館, 東京.

英文

Koeda, K. (2018) Glaucosomatidae. P. 300. In: Nakabo, T. (Ed.) *The natural history of the fishes of Japan*. Shogakukan, Tokyo. (In Japanese)

図の作成方法: 担当編集委員によって掲載可と判断されたのち、著者は原図を提出する。図の注釈は英文とする。

- 原図の様式: 原図はすべて TIFF または EPS ファイルとする。カラー写真およびカラーの線画やグラフは RGB 8ビットカラーモードで、白黒写真とグレーの線画やグラフは 8ビットグレースケールで、白黒 2 値の線画は 1 ビットでそれぞれ保存する。可能な限りグレースケールの線画やグラフは避ける。
- 原図の大きさ と 解像度: 図は編集委員長が指示した印刷時の大きさで保存する。解像度は印刷時の大きさで、カラーモードおよびグレースケールの場合は 300–360 dpi, 白黒 2 値(1 ビット)の場合は 800–1200 dpi とする。

表の作成方法: 表はマイクロソフトワードを用いて画像ではなく、文字情報を基に作成されたファイルが望ましい。各項目は英文で書き、横線のみを用いて作成する。表にはタイトルを表全体の上に英文で書き、説明は脚注に記す。

【On Kuroshio の原稿作成上の注意】

- On Kuroshio は図や引用文献を含めて B5 判 1 ページないし 2 ページの論文であり、英文要旨およびキーワードを必要としない。
- On Kuroshio の原稿は、当財団ホームページよりダウンロードしたフォーマットに従って作成し、図や引用文献などをはめ込んだ状態で投稿する。
- 原稿の体裁：原則として本文の文字は 9 ポイント、表題は 11 ポイント、図の説明と引用文献は 8 ポイントとする。本文の行間は 14 ポイント、図の説明は 9 ポイント、引用文献は 10 ポイントとする。行番号およびページ番号は挿入しない。
- 表題は 35 文字以内、英文表題は 100 字以内とする。
- フッターには英文表題と英文著者名を記入する。
- 著者は多くとも 3 名程度、引用文献は多くとも 5 報程度、図は多くとも 2 枚程度とする。
- そのほか原稿作成上の注意は原著および総説に従う。

【本規定制定日】

2020 年 3 月 5 日